

評価者	環境部長	石井 康則
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	3Rの推進・ごみの適性処理
目標とすべきま ちの姿	大量消費・大量廃棄社会からの脱却についての市民等の理解が浸透し、家庭系ごみ及び事業系ごみの発生量は減少しています。 ごみ焼却施設は計画的な更改、改修が進み、ごみの焼却効率が上がり、省エネルギーかつ環境に配慮した資源の処理が可能となっています。 ごみの発生抑制、再使用、循環資源の再生利用が市民生活に根付き、市民、事業者、市が協働して、安定的で着実なごみ処理が行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	10.4%	平成27年度	9.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	------	---------------

(2) 妥当性

仕事 の 効果	お金の使い方			お金の使い方			<p>&lt;妥当性の分析&gt;</p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成26年度は41%、平成27年度は37.2%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのは、お金を「使いすぎ」で効果「不十分」で、平成26年度14.2%、平成27年度12.4%となっており、左のグラフには表れていないが、仕事の効果が「不十分」かつお金の使い方が「使いすぎ」については、54の施策のうち2番目に高い施策になっている。</p> <p>市民意識では、3Rの推進・ごみの適正処理に対するお金の使い方、仕事の効果とも「ちょうどいい」と回答する市民の割合が減少しているが、今後の進め方について「もっと力を入れるべき」との回答が増加していることから、お金の使い方については検討をしつつ、今以上の効果を出してほしいと考えている方が多いと考えられる。</p> <p>このことから、本事業の効果を上げるためには、更なる工夫が必要である。</p>
	必要以上の効果	5.4%	2.4%	0.3%	必要以上の効果	3.3%	
ちょうどよい	6.1%	41.0%	0.7%	ちょうどよい	9.4%	37.6%	1.4%
効果不十分	14.2%	3.5%	9.3%	効果不十分	12.4%	4.6%	10.9%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	34.4%	45.2%	4.0%	16.4%	100.0%
平成27年度	37.2%	43.5%	3.0%	16.3%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

平成27年度の年間ごみ焼却量29,923トンの達成に向け、家庭系ごみ有料化施策を中心に各施策を推進し、ごみの発生抑制を促すとともに、焼却量削減を目指す。また、新たな焼却施設建設に向け、継続して業務を実施していく。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
環境-01	環境運営事業	2,295	245,873	28,716	264,919	3.5	2.5	b	B
環境-04	環境運営事業	5,788	2,771	13,741	10,692	1.0	1.0	d	B
環境-05	ごみ収集事業	546,589	639,294	602,262	663,057	7.0	3.0	b	B
環境-06	ごみ資源化事業	585,477	673,201	621,267	704,885	4.5	4.0	b	B
環境-07	3R推進事業	47,363	40,319	110,989	95,766	8.0	7.0	a	B
環境-09	環境運営事業	849	42	3,216	2,325	0.3	0.3	d	B
環境-10	名越クリーンセンター管理運営事業	2,801,567	219,542	2,809,455	227,153	1.0	1.0	d	C
環境-11	今泉クリーンセンター管理運営事業		54,169		54,930		0.1	d	C
環境-12	最終処分事業	213,851	221,061	221,739	228,672	1.0	1.0	a	B

環境-13	新焼却施設整備事業	9,735	5,392	19,201	14,525	1.2	1.2	b	A
環境-14	ごみ処理広域化計画推進事業	101	100	1,679	1,622	0.2	0.2	a	B
環境-25	名越クリーンセンター管理運営事業	273,534	358,236	353,615	423,690	10.2	8.2	b	B
環境-26	今泉クリーンセンター管理運営事業	198,768	49,981	263,743	116,915	8.2	8.2	b	B
環境-27	名越クリーンセンター収集事業	14,776	19,639	445,013	449,079	54.8	53.8	b	B
環境-28	今泉クリーンセンター収集事業	11,703	11,822	259,719	267,315	31.3	31.3	b	B
環境-29	笛田リサイクルセンター管理運営事業	140,416	138,818	166,728	165,712	3.5	3.5	b	B

### (3) 主な実施内容

<p><b>【主な実施内容】</b>  家庭系ごみ有料化開始当初に、有料化に係る啓発にあたる嘱託員による巡回、コールセンターの設置による市民問い合わせ窓口の設置により、周知啓発に努めた。(環境-05)  新ごみ焼却施設の建設候補地を決定し、説明会等を開催した。(環境-13)  「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画」を策定するためパブリックコメントを実施し、本計画を行政計画として位置付けた。(環境-05)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b>  ごみ収集事業は、家庭系ごみ有料化などの施策により、収集量は前年比で約4,000トン削減されたが、新たな減量・資源化方策や事業系ごみの削減施策が当初見込んだ削減効果を達成できなかった。(環境-05・06)</p>
---

### (4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>  新ごみ焼却施設の建設候補地の決定を含む「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画」を策定した。  名越クリーンセンター基幹的設備改良工事を終了し、使用電力量についてCO2を26%削減した。  名越クリーンセンター事務所等耐震工事、外壁工事を終了した。  名越クリーンセンタートラックスケール復元工事等、一部の工事を平成29年度へ先送りした。  今泉クリーンセンター焼却設備解体工事仕様書作成と工事発注を行った。  焼却残さを全量資源化した。  最終処分場の廃止に向け、敷地内地中ガスの安定化の促進及び検査・調査を行うため、ガス抜き管の設置工事を実施した。  新ごみ焼却施設建設候補地を決定し、地元への説明、反対の会との話し合いを行った。  ごみ処理の広域化について、進展が見られなかったが、平成28年度からは葉山町を含め、二市一町としての広域化の可能性を協議していくこととした。  名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンター周辺環境調査を実施し、環境基準が守られていることを確認した。</p>
--

### 3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>市民意識調査では、今後の進め方について「もっと力を入れるべき」との回答が増加していることから、お金の使い方については検討をしつつ、今以上の効果を出してほしいと考えている方が多いと考えられる。引き続き、各施策を推進し、ごみの発生抑制を促すとともに見直し、検討、研究を行い、ごみ処理施策の充実を図る。</p>
---

### 4 平成28年度の目標

<p>平成28年度の年間ごみ焼却量の削減目標に向け、家庭系ごみ有料化による減量効果を維持継続できるように取り組むとともに、事業者に対する個別訪問を実施し分別の指導徹底を図り、焼却量削減を目指す。また、新たな焼却施設建設に向け、継続して業務を実施していく。</p>
---

### 5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	環境-04・05・06・07	事業名	環境運営事業・ごみ収集事業・ごみ資源化事業・3R推進事業							
指標の内容	ごみ焼却量の削減					単位	トン	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
ごみ処理は、市町村の義務であるとともに市民生活に欠かすことの出来ないものであることから周辺住民との協定に基づき、年間焼却量上限地を見据え、適正に実施していくため。	目標値	30,721	29,923	31,981						
	実績値	37,284	34,882							
	達成率	82.4%	85.8%							

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	指摘への対応、コメント等
<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭系ごみの有料化」は市民に減量化・資源化への意識を更に高めたとと言える。今後とも「啓蒙活動」に注力していく必要がある。</li> </ul>	<p>家庭系ごみ有料化による減量効果を維持継続できるよう、今後も周知啓発に取り組む。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「効率的・安定的なごみ処理体制づくり」については技術的進化を見据え間断なき改善を希望する。</li> </ul>	<p>ごみ処理基本計画に基づき、ごみの適正処理に努めるとともに、新たな焼却炉建設に向けた事業を継続していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル率が県内トップであり、この点を生かした施策に期待する。</li> </ul>	<p>今後さらに、ごみ発生抑制の啓発、生ごみ処理機の普及に努め、木質廃材や製品プラスチックの資源化に向けての検討を進める。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ袋の金額が高額に設定されているが、今後値下げ等の見直しはないのだろうか。有料ごみ袋の収支計画や説明が必要である。</li> </ul>	<p>ごみ処理経費(歳出、歳入)について、より分かりやすい説明と公開を図っていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>当初予定の戸別収集の実施に向けて、行政の姿勢を示してほしい。</li> </ul>	<p>第3次ごみ処理基本計画の策定を行い、ごみの適正処理の確保に努める。</p>



## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・家庭系ごみ有料化施策を中心に各施策を推進し、ごみの発生抑制を促すとともに、焼却量削減を目指している。
- ・一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画等を策定し、ごみ減量・資源化、ごみ焼却量の削減に向けた事業に着実に取り組んできている。
- ・ごみの減量化に向けた周知啓発のため、職員が努力していた。ごみの発生抑制に市民が高い意識を持った。自治町内会も3R活動に協力しようという動きが見えてきている。
- ・名越クリーンセンター基幹的設備改良工事を終了し、使用電力量についてCO2を26%削減した。
- ・新たな焼却施設建設に向け、継続して業務を実施した。「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画」を策定するためのパブリックコメントを実施した。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	5	↘	0	→	3			⇒	↗	
効果	○	2	△	0	—	6				—	

### 《課題》

- ・ごみ処理経費(歳出、歳入)について、より分かりやすい説明と公開を図っていくことが求められる。
- ・家庭系ごみ有料化による効果を期待したいが、それらの結果が見えていない。ごみ処理量の減少と有料袋による収入増が、どのように効果的に利用されたのかきちんとした説明が求められる。
- ・ごみ削減目標が未達成の要因を明確にし、対応を強化することが求められる。
- ・戸別収集を理由に有料化したにもかかわらず、戸別収集が行われていない事に対する説明が十分されていない事から、今後の方針も含め、市民に丁寧に説明することが求められる。

### 《提言》

- ・有料化によるごみの減量は一時的な現象ということも考えられることから、有料化後の減量化施策を早急に検討すべきである。
- ・ごみ焼却量の削減も重要であるが、0になる訳では無い為、今後どのような方法で処理費用を削減していくのかについて検討し、方針を明らかにすべきである。
- ・高齢社会(ひとり暮らしも多い)の中、ごみ分別は出来るだけ簡単でわかり易くしてほしい。
- ・事業系ごみ分別に一般家庭と同じような分別指導を徹底すべきである。
- ・今後の課題として3Rの発生抑制に力を入れて欲しい。
- ・ごみ処理の広域化について、平成28年度から葉山町を含め、二市一町としての広域化の可能性を協議すべきである。
- ・日頃から市民・事業者の理解と協力が不可欠である。引き続きごみ減量、焼却量削減、適正処理等に向けた事業を行ってほしい。